

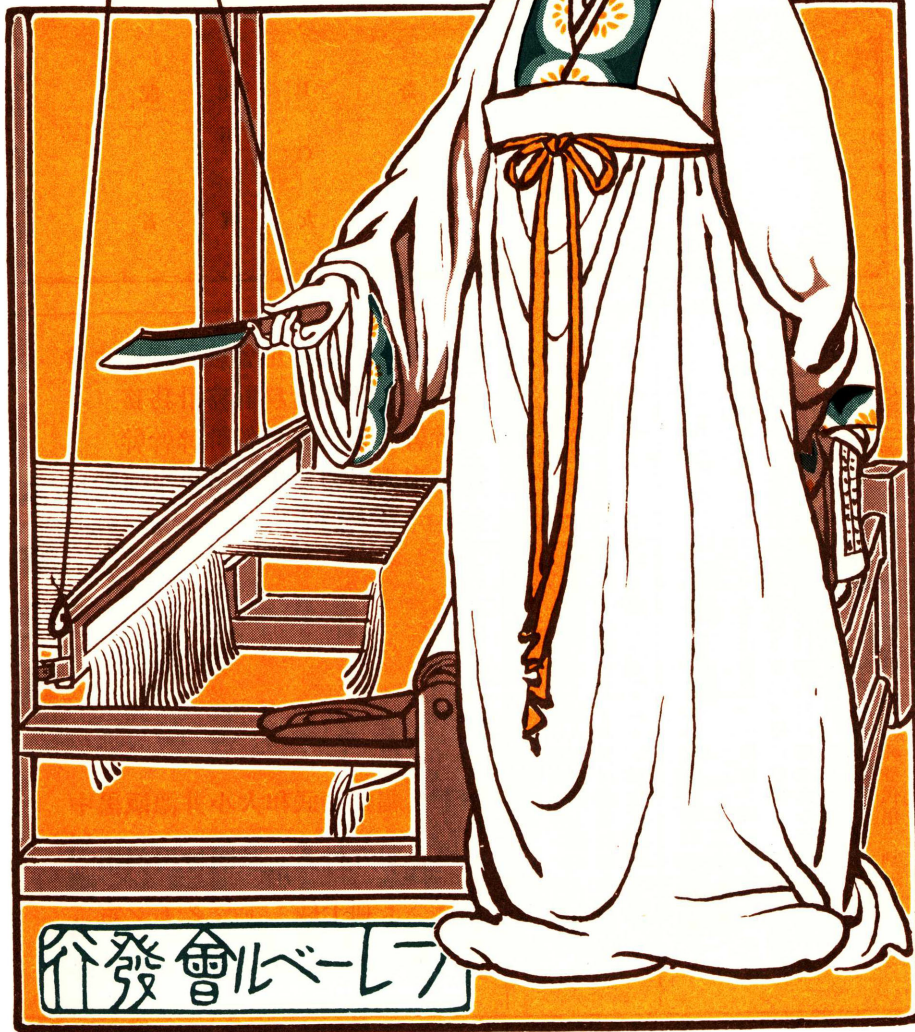


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌



婦 女 と 子 ども

第 十 卷  
第 一 號



フ ー バ ー 會 社 發 行

第拾巻第拾壹號目次

○感化誘道

記者

○阪神地方の保育界を見る

和田實

○自然物を材料とせる子供遊びの  
いろ〜

B O 女子

○子供と両親

奇山人

○婦人の節操

樂天子

○保育叢話

光藤夫人

○女に剛徳養成の大切なる事

○中村敬宇先生の母

記者

○雑録數件

本會役員

會長 主幹 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務  
編輯 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務  
幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事

川 謙 二  
飯 沼 田  
池 沼 田  
井 田  
小 關 村  
大 關 村  
和 關 村  
武 井 田  
山 井 田  
藤 井 田  
福 井 田  
雨 森  
下 田  
實 質

質問規定

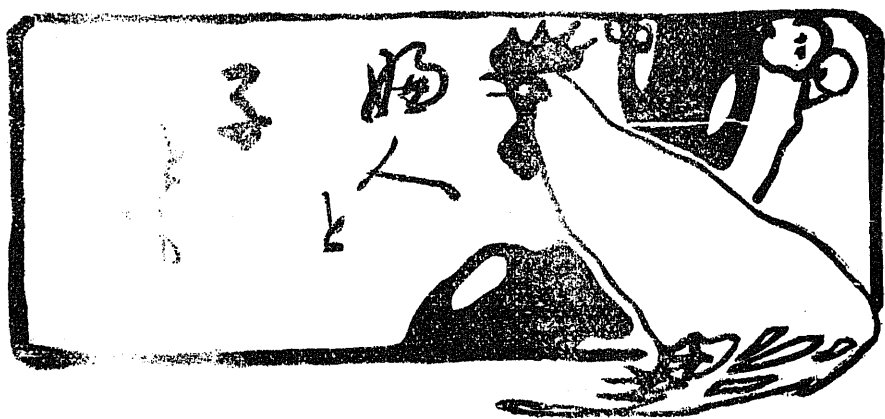
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子共と家庭とに關する事なら何でもお尋ね下さい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又は購讀手續

振替口座東京  
一七二六六番

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ月分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登錄して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい

- ◎一册郵稅共金拾壹錢
- ◎六册前金郵稅共金六拾錢
- ◎十二册前金郵稅共金一圓拾錢
- ◎郵券代用一割増



## 第拾卷第十一號

### 感化誘導

訓練上に感化誘導の必要なことは云ふ迄もなけれど、智育上にも同様に無意識的誘導の行はる可きことは氣付ぬものが多い。斯かる人々は智識は單に注入す可きもの技能は單に教ゆるものと考へて居るのであらう。飛んでもない間違である。注入したる智識も教へ込む所の技術も彼等に之を受取る可き素地を作つて置かなければ決して把持されるものではない。而して此把持點を用意することは單に注入し知らしむるのみで出来るものでない。必ずや感情方面より誘導して充分の興味を發揚せしめ置くことを以て其一豫備としなければならぬ。ヘルバルトが教授する前に管理することの必要を唱へて居るのは此點に於ては決して非難することは出来ぬ。方今の教育は教授萬能であるかの如く見受けられる是れ果して正鵠を得たるものであらうか。吾人犬に疑なき能はずである。否、教授の前に於て常に被教育者の智的作用をも一定の目的に従ひて之を誘導せんことを心掛ければならぬものであると思ふ。

# 阪神地方の保育界を見る

和田 實

大阪神戸地方の保育界が從來盛んな活動をして居ることは兼ねて人の噂新聞の報告扱へは保育會雜誌等で度々聞いては居つたけれど親しく實見するの機會を得て大に事實を確めて研究上多大の利益を得たのは恥しなから今回が始めていあつた惜しいことには參觀の時日が僅々三日間で而も最後の三日目は天長節に當つたので保育の實際を見ることの出来たのは唯二日間に過ぎなかつたのは如何にも残念であつたが何にせよ命令に限りがあるの  
 で止むを得ぬ。

そこで此三日間の參觀の大體をまだ御覽にならぬ讀者に御紹介申さうかと思ふのである、勿論概括的結論的のことはよすこととして茲には單に見たままを見て廻はつた順序に且手帳に書き止めた順序通りに唯まとまりもなく記述して見やうと思ふ

のである。其御積りで前後反復等の煩はしきことは暫く御辛棒を願ひます。先づ最初に見たのは大阪女子師範の附屬幼稚園で小學校の門を入つて校舎と塙との間の通路らしからぬ所を通つて行く幼稚園の子供の昇降口に出る一棟の長い建物の中に保母室、恩物、標本室と保育室が三つとあり。別に大層廣き遊戯室が此建物と直角を爲して建られて居る先づ保母室標本室にある、いろいろのもの  
 を拜見した流石に永く同地方の保育界に貢獻した彼の氏原蝶氏の居られた所として恩物集蒐及其整理上に多大の苦心を拂はれた跡が歴々と残つて居るいろいろときれいな小石や藤豆、桐の實、護謨の木の實などを手技や手工の材料とした所は後の御津や江戸堀の幼稚園で拜見したことであるが誠に能く心掛けられたものである。畫方には繪の具をも使はして居られるそうで筆其他の備品があつた子供  
 の成績を見ると中々きれいに塗られて居る。保育室など見て廻はつて最後に大きい子供部屋に入ると十二三の大きな女の子が頻りと窓の硝子をふいて居つた何もものかと思つたら小學校の子供がま

だ始業には間があると云ふので態々遣つて来て掃除の手傳をして居るのださうだ。都會には珍らしき優しき少女の振舞頗る美しき感を與へた。遊園へ出ると百何十坪かの廣場の三方には若木が植ゑられ保育室に寄つた方には通して一列の花壇が出來て居つた忙しい附屬幼稚園の仕事としては盆栽なども相當に出來て居る様であつた。片隅の所には小鳥小屋がある六角形をした金網張り硝子戸付で階下には兔が住んで居る。又天井裏には鳩が住んで居るのださうであるが近頃は此鳩男子師範の鳩の所へ泊り掛けでお遊びとしゃやれて居るさうである。此小屋は場所もとらないで至極面白いものと思つた。遊園の中央には小山や空池があつて風致ある眺めが出來て居つた山全體は芝が能く生へて子供の遊びには誠に能ささうである。女の子は其處此處に箆を敷いて二三人づゝ遊んで居つた。軽い疊表なので子供一人で自由に始末すること出來て面白さうであつた。又木馬とシーソーとが一方の方に設けられてある。遊戯室に入ると輕便ブランコとポート形シーソーとが片隅にあつた

頓がて朝の會集が始まつて桃太郎其他二三の遊戯を拜見した。遊戯には別段變つた様子もないが動作にはそこゝに多少の差違がある。唱歌は一體に御茶の水の幼稚園のに比べると少し緩かである是が濟むとまた暫は自由遊になる。遊戯室を出るとき子供は一々先生にお辭儀をして居つたが是は怎う云ふ譯であるのかつい聞いて見るのを忘れて仕舞つた。夫からまた室に入つて宇良川主任からいろ／＼保育上のお話を伺ひ保育細目を拜見し幼兒の成績物を一覽し細目の一部と畫方成績物とを頂戴した。幼兒の手工の中に繡縫に能く似たもので糸掛と云ふのを行つて居つた。關東では餘り見掛けないものではあるがやさしくもあり面白くもあつて至極宜しい様に思つた。其仕方は少し厚い臺紙の周圍から敷個のはさみを入れて置き此切口に毛糸其他の色糸を通し掛けるので譯もなく出來て而も一寸縫取の様に見える面白いものである。其外の手技手工は別段變つたこともない様であるから此處をば辭して次には同じ南區中の御津幼稚園を訪問した。見るからに狹苦しき感じのする大

飯の町中を通つて御津幼稚園の門を入ると數十坪  
 位の思はる玄關前の小砂利敷の庭が此園の幼兒の  
 遊園なので、而も此中に風致ある眺めの爲の池や  
 小高き處や樹木などが少し邪魔に感ずる位にあつ  
 たには、少なからず驚かされた。然し考へて見れ  
 ば無理もないので、土一升金一升の大坂としては  
 當然のことである。見れば兎モルモット等の動物  
 も能く飼養され、窓には盆栽棚が出来て居る。數百  
 の盆栽が皆頗る能く世話されて居つた。其上に空  
 間迄が利用されて軒には釣した鉢物が大部見えた  
 中庭の様な數坪の場所は花壇になつて居つたが是  
 も中々能く世話が出来て居る。後にて思へば此園  
 と後の江戸堀幼稚園とは自分が今回見た所の中で  
 は最も成功したる自然物輸入者であつた。頗る  
 遊戯室で遊戯が始まつた數種の遊戯の後で相撲が  
 あつた。土俵には厚き半圓形の藁蒲團を二枚合せ  
 て其周圍にそば殻入の大枕を圓形に並べて急造土  
 俵にするので至極甘く考へたものである。そして  
 其また仕方が頗る面白い。先赤組白組の双方より  
 二人のものが指名されると各赤又は白の襷を肩よ

り掛けて双方の組の章として出て来て土俵の上に  
 構へる。すると全體の見物者が一二三と掛聲をす  
 る。此掛聲で双方が立ち合ふのである。そして一  
 が勝つた度に保母の合圖で萬歳を唱へる。此處が  
 一寸間が抜けることがあるが大體頗る面白く拜見  
 した。此外に重い枕犬の布俵が出来て居つた。幼  
 兒が重い物を持ちたがる時に用ゆるのだそうだ。  
 それから各保育室を一巡して見ると、何れも頑丈  
 な一人掛の椅子が清潔な春慶塗で出来て居つた。  
 見ると机の兩側に狀挿様のものがある。何かと尋  
 ねて見たら保母と幼兒とで共同に製作した手工  
 成績物の整理器だそうだ。室の隅には幼兒の家庭  
 との間に通信する通信簿の紐を付けて肩に掛ける  
 様に出来たのが一括して釣してある。聞けば一般  
 に現在用ゐて居るのだそうである。茲では殊に有効に使  
 用されて居るそうである。次に遊戯室に入つて見  
 ると各柱毎に一冊の繪本が子供の手の届く所に釣  
 してある。何用かと思つたら多くの子供の中には  
 何も遊び様がなくて無聊のものが出来る夫れ等の  
 もの、爲めに面白き繪本を月々取り換へて出して

置くので雨降りなどには一層多くするのでさうである。向ふの壁に赤の小旗と上の方に観兵式の圖とが掛けてある。是は亦何かと思つたら片隅の赤旗は其前の机の上に出してある積木其他の恩物を今日は赤組に限り自由に使用してよいと云ふ合圖たさうで上の観兵式の圖は天長節の觀念の一部に観兵式なるもの、あることを臆氣に残さうため二三日前から談話の豫備に掛けて置くのださうだ。イヤ何れも能く親切に考へたものである。次に便所を見て一寸考へたものだと思つたのは、排便口が普通は開き戸に對して横になつて居るのを縦にしたのと、樋箱の陶器を特に注文して並ものよりも一寸ばかり狭くして其上、下部の方は今一層狭くして全體の穴の形が錐形となる様にして幼児が萬一の墜落を防いだのは外には見ぬ考案であつた。手洗場など一寸工夫したものであつた。此外黒板が衝立式であつたことや附添人を幼稚園に置かぬ様に注意して居ることや先生方が朝出勤してから子供の歸る迄決して幼児の傍を離れぬ様に氣を付けて居られる所など何れも我輩の意を得

た行き方であつた。幼児は一般に前掛を掛けて清楚な様子で元氣よく遊んで居つた。師範の附屬で見た輕便ブランコポット形シーソーは東區一般の幼稚園にある様である。彼是して居る中に時は正午を過ぎたので思はぬ饗應に恐縮しつゝ、色々と保育上の談話を交換して急ぎて船場幼稚園に向つた。丁度まだ子供の居る中であつたのは我輩の爲めには能かつたが主任の人が欠けて居るとかで保姆の方々を驚かしたのは御氣の毒であつた。園舎は出來上つた許りなので頗る美麗な大きなものであつた。折から二の組の遊戯があつて汽車、ボート、其他二三の遊戯を見た、廊下は何れも人造石で敷き詰めて且遊園の砂利敷な地面と同一な平面であること、廊下と遊園との間に柱が所々にある外壁の仕切がないと云ふことは前の御津幼稚園と同様である。此後見た他の幼稚園も皆此様な作り方法であつた。つまり遊園の狭いのを補ふ一つの方法と見受けられる併し船場幼稚園のは其幅が九尺もあるのに驚いた。多分雨降の時に都合よいからであらう。多くの子供が狭い砂利敷の遊園のほこり

の中で遊んで居るのは氣の毒に思つた。茲には少し大きい本式のブランコがあつたが、他と一様な砂利敷なので少し危険の感じがした、此他輕便ブランコ、ポート形シーソー、固定圓木などが見えなければ多くの子供の中には爲うことなしに砂利の上で座つてボンヤリして居るものが尠からずあつた。熱心な大阪市の管下にある最近の建物である。と云ふのは實は樂しみにして見に行つたのだけけれど設備の上には別段苦心の跡もなく中の仕事も欠けて居る位で然したこともなく、痛く失望し、新築紀念の繪はがきを保母の方より贈られた好意に感謝しつゝ、急いで此處をば出で中大兄、汎愛、愛珠の三幼稚園を見た。時間過のことで、保育の實際を見ることは出来なかつたが聞きしに勝る設備の立派な有様を見て驚嘆の眼を見張つた、夫れにしても當局に之を指導する人がなく普及の度が充分に行かず小學校との調和連絡が甘くつかない爲めには是の設備も充分な功績を擧げることが出来ないが視察第一日の状況である。

## 自然物を材料とせる 子供遊びのいろく

(一) 稻の種蒔  
水盤に土と水とを入れ幼児をしてその中に種を蒔かしむ、但し種は始めより三四粒づゝ一緒にし列を正しく蒔かしむ、稻の生長したる後は其の中に小魚など入るゝも面白かるべし、而してこれは種子の發芽し又實を結ぶ有様をよく觀察する事を得るが故に甚だ有益なり。

(二) 口なしの花  
此木を園中に植ゑ花の咲きたる頃には其の花を幼兒にとらしめ其の中央に捧片をさしめ口にて吹けば風車となり水流に入るれば水車となる、其の他小供の考へにまかせて種々の者を作らしめなば興味あるべし。

(三) 蓮華  
之れは冬の中に種を蒔き置くなり春に到れば愛らしき花開きて目をたのしましむるのみならず之を摘む事の樂しみは實に深きものなり摘みし花は糸



にてたね弄ぶなり。

(四) 相撲取り草

蓮華と同じなれども之れは二人の兒童をして各一花を持たしめその花を互にからめて引き合ひ花の落ちし方を敗とす、之れを相撲を取らずとて大に喜び弄ぶ。

(五) ふとのゐはす

共に水盤に植ゑて畑の周圍に置き、又は室内に飾りをくもよし、目を娛ましめ且其の物に對すに觀念が慥にするの功あり、

(六) かやつり

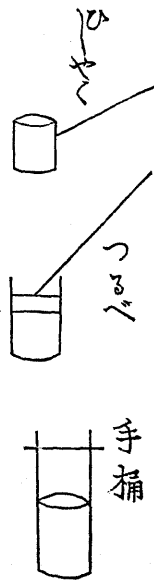
之れは雜草の中に生ずる草にして、其の花梗三角柱をなして五六寸の長さなり、之れを取り二人の兒をして兩端より二つに裂かしむれば方形となる

(七) ほたるぐさ(つゆぐさ)

之れは需用の多き地にては培養すると雖も、通常は雜草中に生ず、其の花藍色にして美しく、之れはその花を摘みとりてしばり青き汁を出し之にてものを染むるなり、又その實は俵の如き形なれば幼兒は好んで之れを弄ぶ。

(八) たけのこ

主としてまたけの子にして直径一寸ばかりなり、普通に竹の子と稱するものより少しく成長せしめたるものをとり皮を去れば節間一寸乃至二寸位にして隨意に小刀にて切り得る程の柔かさなり、之を以て釣瓶ひしやく又は手桶等を作る實に面白き遊びなり、小刀は極めて鈍きものにてブリキにてもよろし。



(九) 菖蒲

菖蒲の葉を去り其の中央部は軸として之を切り矢を作り又隨意の形に切り得るを以て種々のものを作るを得。

(十) ふぢまめ けいと

ふぢ豆の未だ充分熟せざるをとり鶏を作るなり、之をなすには、けいとを以つてとさかとなし他の

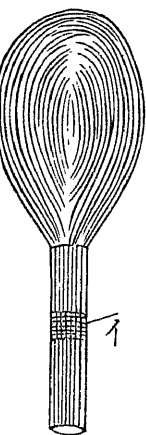
草をとりて尾となし棒片をとりて足となす、之れも亦少し方法を異にすれば他の鳥を作るを得べし

(十一) やまぶき

山吸の莖をとりて其の中の木髓を抜き出す時は白くして美しくしきものなれば之を長くとりては種々の形に結びて美しく、又豆細工の一部分に用ふる時はよき飾ともなり幼兒は木髓を抜くを大に喜ぶものなるに且つ之を種々に用ふるに到つては一層喜んで之れを弄ぶべし。

(十二) 大ばこ

大ばこの葉の成長したるものをとり下部の肉を去りて糸を出し圖の如くなし機織をなす、イ部を上



下するなり。又かくの如く糸を出したるものを十個以上も結びて手玉の如く弄びても面白し、また大ばこの花梗を互にもち引き合をなすも面白し。

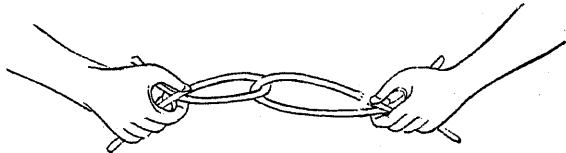
(十三) ふへ 蒲に似たる極めて小さき草にして其の花の穂を脱きてそのあとを口にて吹き笛となす愛らしき音を發するものなり。

(十四) ほうづき

千なり、丹波、犬(かなり)等種種あれども、此等は皆幼兒の大に好むものなり、成長する時は之を取り人形の首となし衣服などきせて樂しむ、又口の中にいれ音を發せしめてたのしむは諸人の知る所なり。

(十五) あさがほ

葉を取りて左手の拳をゆるく握りその上にて右手にてうてば大なる音を出すまた葉の汁にて紋形(次にあり)を染むる時は甚だ美しくしき綠色を生ず又花を搾れば種々なる色を得、紙又はその他のもを染むることを得べし、紋形とは染物屋にて用ふる小紋形の紙様なるものを買ひて之を紙の上



のせ朝顔あさがおの葉は又は其その他たの葉はにてもにてこする  
 時は甚おだ美うくしき緑色みどりいろの小紋形こもんがたをあらはす、又朝顔あさがお  
 顔かほの花はな蝋草ろうそうの花はなにて前まへの如ごとくならず時は種々しゅくしゅくの色紋いろもん  
 を生しやうずるなり、筆ふでを用もちひ墨すみにてなすよりも容易よういに  
 して且かつ面白おもしろし

(十六)じゆす玉だま

鳩麥はとむぎに類るするものなり其その實みの熟じやくするを待ちて之これ  
 をとり糸いとにてつなぎ輪わなど作る。

(十七)じやのひげ

葉はは組くみてムシロ草履ぎやうり等とうを作る、實みは紫色むらさきいろのきは  
 めて愛あらしき小玉こたまにて彈力だんりきあるを以もてはづませて  
 毬まりの代かりになすを得うべし。

(十八)かづら

野生やせの草くさなり、之これを摘つみ來きたりて其その葉はを細こまかに裂き  
 き束髮そくさつ櫛くしなどを用もちひて髮かみをゆひて遊あそぶ、柔やわかにし  
 て毛けの如ごとし。

(十九)くちなしの實み

くちなしの實み成熟せいじくする時ときは幼兒えうじをして之これをとらし  
 め糸いと、紙かみ又は布ふを種々しゅくしゅくに染そめしむ。

(二十)藤ふじの葉はの柄えい

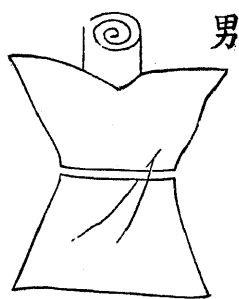
藤ふじの葉はの柄えいは常つねに小供こどものひろひ集あめて喜よろこぶものな  
 り、之これをあみて櫛くし、龜甲かめがら、籠かご、草履くさり、網あみなどを作つく  
 らしめ興味きやうみ深ふかし。

(二十一)玉蜀黍とうもろこし

玉蜀黍とうもろこしの皮かはは人形にんぎやうの頭あたまを作るに用もちゆ、毛けは人形にんぎやうの  
 頭あたまの毛け又は種々しゅくしゅくのものに用もちひらる。

(二十二)柿かきの葉は

柿かきの葉はの美うくしく紅葉かうようして落おちたるをひろひ之これを  
 きり松葉まつはにてとめ次つぎの如ごとき人形にんぎやうを作る。



男



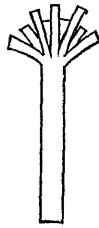
女

(二十三)ぎぼし

ぎぼしの葉はを少すこしあたゝめて之これをもみ口中こうちゆうにてふ  
 くらまし糸いとにて結むすび手玉てだまの代かりとし又は之これれに小  
 孔あなを穿うちてほうづきの代かりとする。

(二十四) きびから  
きびからの外皮をばげば自由じゆうに物をさすことを得  
されば棒片を之にさして鳥居梯子など作る事を得  
べし。

(二十五) 百合ゆり  
百合の花弁を取りて其取口より吹く時は膨くる、  
ものなれば幼児は之を吹きて喜ぶ。



(二十六) 麻あさの莖くきをとり之を管くだとしてほ  
うづきを吹きあげるとを得。

(二十七) 茄子なす  
算盤そろばんの上に紙を置き茄子を以てその上をこする時  
は紙に紫色の美くしきかたを生ず、又茄子に足尾  
をつけて牛馬の形として弄ぶなり。

(二十八) 稻いねの收穫ととみ

稻の穂熟すれば此の穂より吾人の日日食する白米  
となす迄の事を小供に話し之れに用ふる器具即ち  
稻つき、臼等は玩具にてもあれば之を以つて其の  
方法の大畧を知らしめなば益する所多かるべし。

(二十九) 松葉まつば

松葉をとり之れをいくつもつなげば鑽りを得べく  
又之をあみて龜の甲の形を作るを得。

(三十) 椿つばきの葉

椿の葉を二つに折り葉柄の方より葉のさきの方へ  
ときりその尖に小孔を穿ち葉柄を之れにさせば草  
履の形となる之れは椿の葉のみならず椿の葉に類  
する葉は皆かくなす事を得。

(三十一) 石菖いししょう

この葉は細長きものなれば之れを組みてくみ紙の  
如く種々の形になし又はたゝみて石だゝみ等とな  
す事を得。

(三十二) ひいらぎ

此の葉の兩端を第一指と第二指との間にはさみ、  
口にてふけば風車の如く廻る、但し此の葉にはと  
げあれば幼児には危険なり。

(三十三) 竹葉たけのえ

此の葉にて船又は飴結びをなす事を得、船を作る  
には葉の兩端を少しく内方に折りて兩端をそらし  
そらしたるもの一つを他の方へはさむなり。

又飴結びをなすには葉を葉柄と共にとり葉のさき

より三角に折りゆきて終りに其の葉柄を通すなり  
以上は某氏の調べたるもの、匣底に残れるを掲げ  
たるなり。自然物を材料とする遊戯の必要にして  
且興味あるものなることは既に一般に認めらる、  
所唯之を如何に實際に應用せらる可きかは實地保  
育者の熱心に依頼するの外し。

### 子供と両親

奇山人

子供に對して深い關係のあるのは、父親であるか  
母親であるか、それは見やうに依ては、父親の方  
であらう、又見やうに依つたら母親の方であらう、  
仲々考へて見れば面倒な問題のやうであります、  
けれど私は種々の方面より見て、母親の方に、よ  
り大なる關係があらうと思はれます。  
第一は肉體上の關係である。

肉體に依つて成長するものであるから、この間に  
おける肉體上及び精神上、母より受ける感化は、  
非常なものであります。この點に於て母親は父親  
より大なる關係を持つものです、この關係は恰も  
植物が地質次第で、善くも悪くもなると同じもの  
である。地質が悪いのに、その植物が善くなる筈  
はない。母親が悪くして、子供の善くなる筈がな  
いのはこの通りであります。

第二は保育上の關係である。  
子供は或一定の時迄には、母親の乳を飲む、父親  
の膝の上に登ることは尠いのであるが、母親の膝  
の上には殆んど間斷なく登つて乳を飲む、従つて  
母親の肉體及び精神上的の感化を受けることが夥し  
いのである。即ち保育の大部分は、母親が掌るか  
らであります。

第三には心理上の關係である。  
母親のその子供に關係多きは、只に前に記せる點  
ばかりではない、やゝ長じても、父は多くは外に  
出で職務が忙しい、殆んど全く母親によつて監督  
され訓育される、子供の心理的狀態が母より多く

影響するといふのは、まさに然るべき所でありま  
す。

女子教育の大切なる所以  
されば子供は、殆んど母親の育て方次第であると  
いふことは、明瞭なる事實であつて、母たる人の  
教育の大事なることは、今更言ふに及ばぬことで  
ある。任にその衝に當る女子教育者の責の重且つ  
大なることは、さることながら、生れて女性たる  
方は、十分の用意がなければならぬ、女子教育、  
女子修學の大切なることはこれにて分る、さはい  
へ、男子の方面からいへば、男子の方も仲々重い、  
注意すべきことの多い中に、殊に酒色に耽ること  
が、その子に激烈な害を残すことを承知せねばな  
りません。

### 婦人の節操

### 樂天子

婦人の節操は百行の本、萬徳の中心であります。  
論語に周公の才の美なりと雖も、驕り且つ吝なれ

ば、その餘は見るに足らずとありますが、婦人の  
人格を論ずるにおきましても、又かくの如しと言  
はねばなりません。如何に彼の清少納言の機智才  
藻がありましても、婦人の節操の點に於て、如何  
はしいことがありましたら、その餘は見るに足ら  
ぬと言はねばなりません。

これに依て之を見るときは、女子の節操は、學識  
よりも才能よりも、財産よりも、美的修養よりも、  
重きが上に重くして、女子の人格を左右するもの  
と言はねばなりません。

されば、わが國に於ては女子の節操は、古來男子  
の忠愛心に比し如何なる順境に在つても、如何な  
る逆境に在つても、之を亂さないやうに努むるこ  
とは、必ずしも中等以上の婦人に強ふるばかりで  
なく苟も女子と生れたる以上は、所謂「貞女兩夫  
に見えず」の格言を以て、終生の教訓としたるも  
のであります。

然るに現時の説は、どうであります。女子と雖  
も、男子と同じく人權天福を有して居ります。有  
夫の婦、又は有婦の夫にして、他に二心を有する

は沙汰の限りであります、その配偶者の死亡、又は法律を以て離婚の正當なるを主張し得べき場合には、離婚再婚決して不可とするではありませぬ。否、却つて之を奨勵すべきものだ、是亦道理ある言葉であります。

固より再婚の可否に就ては、私は男子についても女子と同様な意見を持つて居るものであります、之を人倫より見たならば、再婚は高潔なる愛情を殺ぐものであります。所謂戀愛の神聖を汚すものであります。例へば男子の戰場にありて、將斃れ卒死し、刀折れ矢盡きて、降參を軍門に乞ふものが、必ずしも現代武士の耻辱とするに足らないとしても之を以て日本武士の面目とすることの出来ないやうなものであります。されば現代の日本婦人は、如何に節操を持つべきかと云ふに、それは申すまでもなく、「貞女兩夫に見へず」といふ高潔なる心情を保ちてその如何に逆境に遭ひましても、再婚を拒み、高潔なる生活を希ふべきは勿論であります。

以上の再婚否認説は社會の各婦人に申すばかりで

なく、世の男子に對しても、亦之を希ふものであります、未だ社會の不完全にして、人事の不如意なる、是非この様な嚴肅説を、一般の婦人方に強ふことは出来ません、その生ける夫に對して、至誠の情に缺くることなく、その死せる夫に對して追善供養の赤心を了るものは、凡そ一ヶ年を以て限度とします。再婚が必ずしも不名譽とするものではありません、却つて世の如何はしき獨心者流に優ること遠しとするものであります。

故に私は、その素養深き高潔なる婦人の再婚を拒まるを、人生の大名譽とすると共に、世の常の婦人に對して、正當なる再婚を遂げらるゝを、今代の人道として寧ろ希望するものであります。

### 保 育 叢 話

光 藤 夫 人

十年間中子供を育てるにつきて最も痛心せし失敗談子供をして、病氣にかゝらして心配した事もありませんし、下女共に預けて置いて我怪をさせられて

心配した事も一度や二度では御座いません、殊に子供がハイハイし始める頃からの危さと申したら、子を育てらるゝ人の誰れもが御経験なさる所で御座いませう。縁側からコロガリ落ちて頭を打つ様な事は度々で、少し目を離しますと、度臆を抜かれる程驚く事が度々あります、之を防ぎますには、負ぶも抱子も方法がありますけれど、活動したい子供の自由を奪ひて、之を背にくくり付けると、よろしくあるまいと思ひます、只私は子供室及び運動場の設備が肝要だと存じます。私はかつて京大學總長の菊池男爵の御邸を伺ひまして奇石や珍木を植ゑ込んでありますのは、只應接室の見晴らしよき所と、塀に沿ひました二間程の長さの間で、其の中央の廣い場所には皆芝生で子供が自由に轉がつても、起きても、鬼ゴツコをしても、何の遮るものもないのを見まして、いと羨しう存じました、私も少し富有の身となりましたらば、早くかくして、子供の室も設けたいものと思ひましたが、若し、幸にして富有の身となる事が出来る頃には、モー子供は生ひ立つて、大人

になつて仕舞ふと思ひますと、實に人生の如くならざるもの十に八九の古人の言葉を思ひ出さずには居られませんでした。男爵は御子寶でしかも其お子様を教養されるのに用意が周到であるのに感じました。マゝ並々の家では大人の室も、子供の室も皆一緒に御座いますから、子供に取つては大變な不幸で御座います、叱られなくつても濟む時にも、大人の室ではつい其處にある本をいぢつたり、破つたり、道具を破つたりしまして、餘計な小言を頂くのであります。且つ危険が多いのであります。私がかつて滿一年になる幼児を背にして、片付をいたし、モー片付も濟みましたから、ソロンロおろして遊ばせやうと、負付の紐を取るはづみに、勢するどく、子供を眞逆さまに落しました、不幸の重なりたるものか、否全く、不注意のいたす所で、其の落ちた所には、火鉢が二つ並んで居りました、其の火鉢の黒檀の堅い縁で、した、か顔を打ちました、其の泣き聲の遅いのは、たしかに打撲の強かつたに相違ないと、ビックリ仰天抱き上



げて見ますと案の定鼻の左側の頬に接近せる凹んだ所から出血が甚しく、顔は血を以て彩られてあります、ア、此の時の驚と、悲しみと、口惜しさは、いかいで御座ましたらう、湧く様な涙が押し来て来る様で、我身の不注意不甲斐なきが、しみじみ恨めしく、愛子に詫ぐる心の中、何とも譬へやうがありませんでした。

早速、負ぶして、醫者の許に駆けつけました、幸醫者も在宅で御座います、朝の事ではあり、診察室の準備も出来て居ないので、書生は石炭をストーブに入れるやら何や角と、時間を費さるゝ時の待遠さ、一時千秋とは實に此の時の心持で御座いませう。愛兒の顔をのぞいては、熱い熱い玉のやうな涙が溢れる、許してよ、愛兒、許してよとの、痛切なる心の響が愛兒の心に通じてか、子供はスヤスヤと眠り出しました、見る目がつらひので眼を外にそらせますと、空は一天かきくもりで、霰さへ、ザー／＼と降つて参りましたが、私には其の寒さも何にも思はれませんでした。三十分も待たされて、シヤクに障つたから、外な

醫者にとチレ／＼して居ります時醫者はユツクリと出て来られました、創を調られました、鼻の側六分計り切れて居りました、綺麗に洗ふて、縫ふので御座います悲、何分溝で縫ひ惜い、子供は大聲上げて泣き叫びます、醫者は縫ひ惜いとコボシます、書生はオゾ／＼して居ります、私は只モ一悲しみに心も亂れて見る勇氣はありませんが、矢張見ずには居られません、見ると止め度もなく落つるは袖の涙で御座います、十五分もかゝりまして、やつと手術が終へましたから、宅に歸りました。愛子はつかれ切つた様によく眠りました。マ一お守子もりが落す事か、殆んど全身の愛は、此子に、蹴がれてある母親が何とした粗忽か不注意か、我子を落すさへあるに、折悪しく大怪我をさせるとは、何といふ不甲斐ない親であらう、どうした、不つかな母であらうと、殆んど形容の出来ない様な、嫌な感じに胸はかきむしられる様主人も夕方歸りまして、下女から聞き取り驚きあきれるばかり、私は合す顔さへない様な氣持がいたして、殆んど苦痛の絶頂とでも申すので御座

いたしましたらう。  
 醫者の言葉で二三年すれば創の跡もなくなるでし  
 ようとの事で御座いましたが、丁度一年後の今日、  
 大方分らなくなりました。毎日、其の創を見ま  
 しては、よい戒めにはなりましたが、尤も苦痛な  
 戒めで御座いました。

女に剛徳養成の大切なる事

昔時スバルタの隆盛なりし時の女はいかに御座  
 います。歴史で皆知つて居らるゝ通り、我が愛  
 兒の戦場にのぞむ時、餞別の言葉はいかに、門邊  
 に愛兒を送りて、涙を一滴落す所もなく兒よお國  
 の爲めに奮闘せよ、敵に後を見する如き卑怯の振  
 舞があつてはなりません、若し運悪く敵を滅する  
 事が出来ないならば、刀折れ矢盡きたる後、身を  
 原野に晒せ、敗戦の不名譽を擔ふて、再び天日を  
 仰ぐなどは、せん弱なる母親の、我が兒に對する  
 言葉でありました。

佛帝ナ翁が歐州諸強國を討ち平げて、威を振ひま

した當時、先づ征せんとする國の、女子教育の程  
 度を調査したとか、幼時からよく聞いた事であり  
 ますが、實に一國の強弱は婦人の力の預りて大に  
 る事が分るではありませんが。

如何なる英雄でも、剛傑でも、皆この女子の體內  
 に宿つて、其の教化を受けぬものはないのであり  
 ます。其の母にして身體は薄弱で精神が柔弱であ  
 りましたならば、どうして、剛毅な勇士を生育せし  
 める事が出来ませうか、ベルシヤが一時隆盛を極  
 めましたのも、ナポレオンの成功しましたのも偶  
 然ではありません。

本邦でも歴史的に、之を研究しましたならば、必  
 ずそのしかるべき理由の虚言ならざる事が證明さ  
 れるのでありませうが、私の今こゝにのべたいと  
 思ひます事に余り遠かりますから、これは他日に  
 譲りまして、只現今の世、女子が如何になりつゝ、  
 あるかをのべて未來の女子否母となるべき幼女の  
 教養上の参考にしたのであります。

私は素より井底の蛙でありまして、廣い世間に

通ずる事は出来悪いのでありますが、それでも時上流の貴婦人とか、下流のドン底の車夫の妻とかまで、よく口をきかして、いつも色々な學問をするのが好で、時間を節約しましては、出来る限りあらゆる方面の方を極簡単に訪問するのであります。

狭い私の此の實驗から、割り出して、其の要領を申上げましたならば、いづれの社會を通じて、皆女子に剛徳の缺乏を見出す事が多いのであります。

極下等な、殆んど教育としては受けない、生れながらの野育ちの女は身體は割合に強健でしかも力量は、男子をしのぐといふ様なのがありまして、雪の降る寒空に跣足で、洗濯でも、何でもドン／＼やる、一寸見ましたならば、マー強い事と奥様方は感心遊ばすのがよくありますが、この強いといふのはホントに身心を鍛練して、完全な教育を受けた結果ではないので、只幼少より境遇上止むななく、常に貧窮を訴ふるの余り、余義なくされた結果で、只手足が其の寒氣に堪える丈で、強いとい

へば強いのですが、只不完全な、身體の鍛練の結果の現はれたもので、教育上價値あるものとは思はれません。なせならば、かゝる女子は雪には堪え得る事が出来ましたが、心の修養など殆んど皆無で、何も事ない時は、それでも、すみませんが、何か一寸境遇に變化があるとか、少し面倒な仕事でも、命じて心を用ひしめ様といたしますと、一向役に立ちません、少しの難事に出逢ひましたも、彼等は此を理屈的に判断をして、其の難儀をしのぐ事をつとめ様とはしないで、只徒らに、ア、夢見が悪かつた、何か屹度身に災難でも來るのであらうか、父を失ふのであらうかなど。あられない心配をして、その余りに身體までも痛めるといふ言は、禽獸に近い役に立たない、女子であるのが多いので之は眞の剛徳でも何でもないのであります。

次に上流中流に人となられし女子達は、ドーモ身體が柔弱な風がありまして、所謂荒い風にも強い雨にも堪えにくいといふ風で、只モーやさしいのを主といたして、何事にも女らしかれ、即ちやさし

かれ、華奢なれと教養するの結果、身體は柔弱になり、柔弱なる身體には、又柔弱なる精神が宿りまして、心身共に柔弱に流れ、少ない人数の家でも、下女を使はないと用が足りない、不経済でも、何でも仕方がない身體には變へられない、雪の日に米を磨げば、ヒビが切れる洗濯をしますれば、霜焼が出来、手が太る、お三見た様になる見つともない、人中に出られないなど、徒な心配をして、少しも役に立たないといふ風が多いかと思はれます。

かゝる鍛練も何もいらぬ、只やさしかれ、女子らしくかえと希ふ變則なる教育の結果、種々な實になつた實例が澤山ありますが、尤も變則な發育を遂げた婦人があります。

實例 中流の生活をして、何不自由なく、暮して居る夫婦の中に、男兒は三人もありました、女子がほしやと思ひ煩ふ折も折、掌中の珠と愛せらるゝ、女子が生れて來ました、両親の喜びはいはずもがな、親類知己皆其の幸多きを悦びました。

素より中流の生活の何につけ、一人娘の事として、蝶よ花よと愛でいつくしみ、重いもの一つ手に持つ事もなく、つたかづらの様に、なよなよと生ひ立ちました、其の心の弱い事、一寸した出来事で、夜の目が眠られぬといふ騒ぎ、私共のスレツカラしは、マアあんな事が氣にかゝるとは、お可笑いと、いつて笑つて居りましても、御本人は至極眞面に一生懸命心配して食事もろくろく出來ないさわざ、余程感情的で同情の念は深いのです、身心の柔弱なる事、難事に堪へるは愚か、平凡な事でも少しも我慢が出來ないのであります。

こんな風でありますから、妙齡の頃から、縁談もありました、アソコは姑があるから駄目、コチラは食客があつて厄介が多い、アソコは人数が多いから氣象が多い、コチラは遠方へ勤めらるゝから故郷をはなれる心配がある、マア何の彼のと一寸した事を氣にかけて、親御も亦一日でも餘計に手許にをきたいと希ひ、トートー今日初老の域に達して、人生の終りも近づいて

も矢張心細くオールドミスとはなりはて、心をまぎらす由にもと、毎日カラ／＼下駄で、學校に幼兒を教へて居られます。

學校へでも出て先生でもするといふのは、余程しつかりした人でなければ、六ヶしい様でお座

柔弱驚くに堪える様の人もあるもので御座ます。

かゝる變則の實例は余り多くは見聞いたしません

が、之に似寄した事はよくあるので御座います。

つまり母親已に剛徳に乏し、我が子を教養するの

に己に此の鍛錬主義に乏し、従つて剛徳の芽は發

育を遂ぐる事が出来ません、親譲りの柔弱な風は

又其の女兒の全身を支配して、正しい人道を踏ま

せる事が出来ませんでした。

元祿時代世は太平の夢にねむりて、士氣が柔弱となり

なりました結果はいかに御座います。文武日に月

に開け行く昭代の今日内憂外患のない事は

ありませんが、一般にドイヤラ秩序が整ひまして

太平を謳歌するの時、再び元祿時代の柔弱の風を

醸しはいたしますまいか。

柔よく剛を制すとは誰れも申す事で、御座います

が、今少し柔の徳を養成すると同時に適當なる方

法によりまして、柔徳を害せざる範圍に於て、剛

徳を養ひ、平素は兎も角一朝變事に遭遇して順境

より逆境に陥りました様な場合にも、餘りうろた

へて不覺の涙の出ない様に、餘り愚痴ばかりこぼ

さぬ様に平素から矍しておく事が大切であります

圓滿なりし家庭の、俄かに父を失ひて悲觀し、落

魄して家名をおとすとか、いつぞや新紙の三面記

事の材料となりし某博士の令妹が、操を破りて、

朝に吳客を送りて、夕べに越の客を迎ふといふ

様な、淺ましい賤業に身を落して、一身一家を誤

りし様な、或は慈母に離れ繼母のよそ／＼しい取

扱を受ける様になると、俄に世を悲觀して、一

身をつめたきレールの上に殺すとか、其の他日々

起る事件のいかに多きは、はかり知る事が出来

ませんが、此等逆境に身を入れました不幸な人で

も、若し平素からよく當局者が剛徳を養成してお

きましたならば、或は其の災も少くして濟むか

も知れない場合が澤山あるのであらうと思ひます

よしかゝる。逆境に逢はないにしましても、之れからの世は、生存競争が日一日と烈しくなるのであり、ますから、女子が柔弱でありましたならば、決して其の競争に打ち勝ち、好い結果を納め、健全な家庭を作りて、其處に身心健全な子女を養育するといふ事は六ヶしいのでありますから、極幼少な頃から母親が充分な注意を以て、殊に女子には優にやさしい其の中に犯す事の出来ない剛徳を養ひおく事が肝要かと存じます。

要するに下流の女子の剛徳の缺乏は心の教育の不足にあるので、上流の女子の剛徳の缺乏は身體の鍛錬の足りない傾向があると存じます。無論上流の女子でも、心の修養は立派であるとは申されませんが、大要かく區別する事が出来ると思ひます。身心は密接な關係のあるもので、身體の影響は心に心の影響は身體に及ぶのでありますから、兩方をよく適當にねり上げなければ、完全な剛徳を備へた婦人とはなれないのであります。

### 中村敬宇先生の母

記

者

文學博士中村敬宇先生の名は西國立志篇の譯者としてのみ今の青年界に殘つて居るけれども其眞摯にして温厚なりし德行に至りては風にも學者界に敬重せられて同人社なる先生の學塾の江戶川河畔に盛りし頃は一部の學生から神の如く尊敬仰慕せられたものであつた。今の女子高等師範學校も暫くは校長として先生を戴きしとがある。斯く一世の推重を受けし先生も明治の初年鎖港攘夷の説喧し或は幕府の專横を憤るもの或は當局の優柔を慨するものなど續出して學者志士のそこ此處に刺客の手に斃るゝもの尠らざりし頃には危くも一ころであつた。然るに先生の母堂は従容として家人の狼狽を意とせず、當の刺客と押問答をして遂に之を説伏せて仕舞つた爲めに先生は幸に命を拾はれたさうである。當時の様子が先頃或新聞に出て居つたのを見ると其母堂の尋常一様の婦人で

なく其子に敬宇先生の出づる決して偶然でないといふことが判る。左に記するは當時の模様の大體である。敢えて讀者の一讀を希望する。

維新の當時徳川幕府が先帝「孝明天皇」の英明を憚りて之を廢し奉つて今上を立てやうとして時の學者に廢帝の例を調べさせたとの風説が専らであつた。而して其調査の命を承はつた不都合な學者は

塙二郎鈴木重胤と中村敬宇の三人であると云ふので、己れ國賊生かして置くなと云ふので塙二郎と鈴木重胤とは早速志士の手掛つて忽ち黄泉の客となつたが、幸にも中村敬宇先生のみは誰も手を

下すものがない、そこで筑波義隊の志士薄井某と新徴組の豪もの小林某の二壯士が相計つて敬宇先生の家へと押掛けて行つた。先生は當時昌平橋

聖堂の役宅に住んで居られたので今の聖堂裏の古門の側であつた。左に記すは當時の有様を薄井某が語つたまゝである。

さて兩人は玄關に立て案内をする取次が出て來て來意を聞くから用向は御主人に面會の上で無くて

は申されぬ姓名も憚りありあつて申上られぬと云ふとそれでは面會は出來ぬと云ふから開な事はお前の云ふ事ではない、兎に角主人に取次が宜しいと云付けると取次の者は澁々奥へ立ち行つた。自分等は直ぐ其跡に尾き踏込み今しも取次が居間の襖を開け只今玄關へ、と云ふか云はぬに後から取次の者を押退けて用向の者は拙者であると云ひざまづか／＼と中村の前に押坐つた其時中村は晩の食事中で侍女に給仕させて膳に就て居たが、侍女は此方の權幕に恐れて逃て行く中村も呆氣にと取られて居る。

自分は直ぐに斬付けけるのは譯もないがそれでは氣が濟まぬ。詰るだけは詰つて其實を吐かせその上に手を下すも遅くはあるまいと「貴公は先頃幕命に依て廢帝の古例を調べたさうだが確と左様か何だ、己れ腐儒者性根を据て返答せよ」と刀を引着け居合腰で詰り問ふた、其時後の襖をすらくと開けて、座に入つて來た女性がある動するけしきもなく中村の傍に優かに坐つた。女性に坐に就つてや靜かに一禮して「妾は敬宇の母

でござります」と落着いた挨拶があつてさて云ふには「只今召仕の者が急遽しく驅けてまゐり尋常ならぬお客様があるとの知せに、失禮ながら襖の外から御來意は承りましてござります母の身として外にも開過されず失禮も顧みず御挨拶に出ましてござります御詰問の仔細はいかにも御概憤御尤ともではござりますが、其儀は母子の間柄でありまするに母の毫も存せぬ事根もない世間の風説かと心得まするに限りて其様な儀は毛頭ござりませぬ事は此母が證人に立ます」と騒ぐげしきもなき辨解には自分も勢を挫かれたが強く聲を荒らげて、母が知らぬとてそれが無根の證據には相成らぬ其やうな秘密の取調べを母に告知する道理も無い筈邪魔な所へ出しや張つと控えて居れとキメ付けるに「貴下は世間の風説と現在の母の申上る儀と何れを信としてお取上になりませるか、先づ一通り此母の申解く事をお聴取遊ばして下さりますまいか」と平然として尋常の客に對談するやうな落付た物言、それを斥けて斬付ける事もならぬので「いかに一通りは聞いて取らせやう小林

中村を逃してはならぬぞ氣を付けてくれ」と一方中村を監視させ膝を進めて「サア申せ聞う」と迫ると「私の家は徳川のお祿を頂戴して居ります其お上の事を惡ざまに申すは實に心苦しい儀ではござりませぬが我子の命には代られませぬ女の口よさり如何の申條でござりますすが腹藏ない所を申すれば近頃幕府の朝廷に對する御仕向は非道とも何とも申やうはござりませぬ何とも以て朝廷には恐多い儀と恐懼して居ります其非道な幕府が假に天皇を廢しまつるにしても何で廢帝の故例を調べさせるやうな迂遠い事を致しませぬやうぞ又假に其故例を調るとしても態々學者に命を下す迄もななく彼の北條氏が暴逆無道一時に四帝を遠流しまつりし承久のことは歴史の片端を窺ふた小兒でも知つて居る儀ではござりませぬかそのやうな例もあるに御讓位を迫る位は今の幕府の仕向として容易い儀、それに何を苦しんで廢帝の例を調べさせるなぞの廻り遠い事を致しませぬやこれやを篤とお考へになれば世間の風説は根もない儀とお分りになりませう根拠も無い風説で人をお



斬なざる、貴下ではござりますまいと失禮ながら  
 存じます。殊に悴は幼なきより孔孟の道を學び  
 大義明分は辨へて居ります苟にも朝廷に對して  
 不忠不義を働くやうな疑は此母が致さぬ筈サア斯  
 程に申し解きましたも御疑念が晴れず尙悴をば手  
 に掛けやうとならば何と致し方がござりませぬ  
 不運とあきらめてお留は申しませぬが老先短い老  
 母一人生存へるも詮ない事母子共々潔くお手に  
 掛けて果まするでござりませう」と實に理義明白に  
 説かれて見れば成程一々尤である殊に我子を庇  
 ひて身を投げ出した老母の眞情と其雄々しさには  
 心密かに感じた。もう手の下しやうも無い然し刀  
 の手前只引歸る譯にも行かぬ、いかにも其方の云  
 ふ所は一應は聞えた然らば今日は此儘引取るが若  
 外を調べて其事實があつたとすれば重ねて首を申  
 受にまゐるぞ先づそれ迄は其首は確と預てまゐる  
 ぞ」と棄臺詞を残して引取つた。踏込で斬れば譯  
 もなく殺せたのである中村は實に命冥加の人でそ  
 れにしても其母は豪い女傑である。

## 雜 錄

### ● 朝鮮の家庭

▲門が幾箇もある 近所に朝鮮の貴族があつてそ  
 の貴族の夫人が日本婦人が珍らしいから一度逢ひ  
 たい來て下されとやかましく云つて來る、下女に  
 韓語を使ふものがあつたのでそのお邸へ行つたこ  
 とがある、行つて見ると門が幾箇もあるのには驚  
 いた、大門を入ると下男下女の部屋が門内に並ん  
 である、一度下女なり下男になつたら終世浮ぶこ  
 とはないそれだから總體下男下女夫婦で暮らして  
 ゐる、そこを過ぎると又門がある、この門を入る  
 と家來衆の部屋があつて又門である、この門を入  
 ると正面に應接間がある、その邸の中央の華美な  
 裝飾の室に主人が頑張つてゐる、この主人の室の  
 四方は廣い板の間でこゝにまたゴロ／＼門に座が  
 ある。こんな有様だから夫人の居間へ行くにはも  
 うへナ／＼になる、夫人の居間はここの邸内にある

けれど又別に一廓をなしてゐた

▲貴婦人お化粧 貴族の夫人としては餘りにその居間が狭い、四疊半位であつた、夫人はよく來て呉れたといつて大層悦んだ、銘仙の衣服を撫でたりして美しい衣服であると賞め帯も賞めたが斯う大きく結んでは脊中が辛度いことはないかと心配さうに問うた、この夫人は非常な美人で年齢は二十五六、化粧品を出して見せたりしてこんなものは日本でつかふかと問ふ、その白粉は日本でズツと以前に使つた細小い塊(切餅のやうな)のものである、又鬢附をコテ／＼とつける習慣がある、それがため夫人の髪はそれは／＼漆のやうに美しかつた、白粉を濃く塗るから更に美しさを増す、そして眉毛なども三日月形でヌーと引いてあるさへ美しいのに額の生え際を一種の輪廓をつけて綺麗に剃つてある、それは絹絲の片端を口にかみ片端を手に持ちて額に摺り、根に任せてウブ毛を切るのである

▲子供の誕生 子供が生れると男は勿論女でも他人は滅多に産室に入れない別に産婆といふ者がな

いとところだからそこに雇はれてゐる下女が何も彼もやつて退ける、どんな暑い時でもオギャーと生れたら直に足袋を穿かせるのだ、初めての誕生日の時行つて見た、主人の居間は男達ばかりで賑つゐる、細君の居間は婦人客ばかりで騒がしい、嬰兒は子供だけの白い極薄い蒲團を敷いて寝させてあつた、總體襦袢を着ない習慣で嬰兒までも襦袢を着せぬ、玉がいろ／＼と綺麗につけてある紅や紫の色美しい帽子が眠つてゐる嬰兒の頭に被らせてあつたこの帽子は必ず誕生日には被らす習慣である、子供の傍へ行つて美しいお子やと皆賞てゐる、そのうち御馳走が出る、斯ういふ時には料理人が來て獻立をする、落雁のやうな菓子料理に添へてあつたためたい料理にはこの落雁のお菓子が必ず添うてゐる、婦人が子供を背負ふのは日本のやうに脊中の真中へ括りつけるやうにしない、腰のあたりへ白い小蒲團をやつて落ちないやうにく／＼つて平氣に歩いてゐる、外出する時はお極りの被り帽子を被るとその帽子がフワリと垂れて子供の身體を包んで了ふ

▲玩具は無い 子供の玩具は殆ど無いというても然りで偶に日本の首振人形など持つて行つて子供に與へるとワアと泣く位である、風遊びと氷滑りとシイシーはよくやつてゐる、シイシーといつても材木をどこからか持つて來てガタリガタリとやるのである

▲婚禮の披露 判尹とかいふ何んでも日本の裁判所の判事とかに當る人の息子がお嫁を貰ふたその披露に請待されて行つた、お嫁を貰ふ事となりいよく祝言をやるといふ日の朝早くからお嫁さんは薄化粧して彩色の服を着て美しく飾つた馬に乗り供を伴つて嫁さんを迎へに行く、歸りには嫁さんの家で捧げた鳩とか鶯鳥とかを持つて悠々として歸る、

お嫁さんは輿に乗つて數多の附添に擁せられて聲さんの家に入る、お嫁さんは一旦化粧の室へ入つて、化粧を仕直す、お晝に祝言の式が濟んで三時頃から披露宴に移つた、嫁さんは前へいろくの玉を幾つものダラリと下げてゐて鳥の羽の附いた被りものを着てゐた、頭髮は三つ組にして濃い

化粧美しいのに頬の上へほつと日の出のやうに紅で丸を出してある一座席定まると豚の肉や鳥の肉迄もゴタ／＼と煮た喰物をお喰り下さいと主人は勧めるので啜つて見たら大層旨かつたそしてその智さんが十三で嫁さんが二十五であつた、總體朝鮮の婚禮は智さんの方が年下であるが妙に感じられる(大阪朝日)

### ●養育院收容者

理想なる將來の黄金時代は知らず事實自から養ふ方も無くさりとて扶助して呉れる近親もないと云ふ如な行路病者孤獨の老幼又は浮浪者は昔から尠からずあつたと見えて大岡越前守は今より二百年前養生所なる者を設け、下つて松平定信も教育所なるものを立て、不幸なるもの共を救護した此東京養育院も明治五年道途に浮浪せる乞食百四十餘名を集めて救養したのが濫觴で爾來場所や内容や種々に變動して今日に來つたものである而して現院長澁澤榮一氏は明治十七年から引續いてやつて來たのである

▲收容さるゝ人々 本院は小石川大塚辻町で其内  
 兒童全部は巢鴨の分院に收容し其童中性質の不良  
 なるものは井の頭の感化部に入れ體質の薄弱な  
 のは安房の船形町の分院で療養せしめてある、で  
 一體什麼者が此院に收容されるかと云ふと窮民と  
 云ふのは二ヶ年以上市内に原籍又は寄留籍を置く  
 もので老衰、病氣其他の理由で自活することの出  
 來ぬもの、次は行路病人と云つて行き倒れ第三に  
 は棄兒で其次は遺兒と云つて親や原籍は分つて居  
 ても置き去つたものゝ行方の知れぬもの又迷兒も  
 收容するが此二者は引取人のない時は結局棄兒に  
 編入されて新たに一家を創立する事になるのであ  
 る以上の五種と感化生を併せて六種のを收容  
 し救養するのである

▲望み無き生活 收容されても扶養者の發見され  
 たる場合には直ちに其者に引渡す又一時飢餓の爲  
 めに救はれたるものは軀が出来れば自から出て行  
 くので出入は随分頻繁であるが是を平均すると此  
 の頃では一千七百餘名を收容して居る是等の多數  
 の者も太抵は病者や老衰者で即ち多くは病人とし

ての生活を送つて居るので此中の健康状態に復し  
 た男百名、女子四十名許りが僅かに状袋貼り紙函、  
 麻裏、印刷、洗濯及仕立、機業、炭團などの製造  
 に従つて居る、夫れで一人の稼ぎ高は大人の最高  
 額が一ヶ月四圓六十三錢最低は僅か六錢（七月中  
 の調べ）位いで是は規定に依て全部本人に拂ひ渡  
 される此中炭團製造は重に白痴や聾啞者が遣つて  
 居るが材料は砲兵工廠から買つて來て随分大仕掛  
 けにして居る食事の如きは贅澤にしては經費の點  
 もあり又本人將來自活の際邪魔になると云ふので  
 飯は米七分麥三分（と云ふのは規則で記者の見た  
 所では反對に麥七米三位と思つた）のを朝は粥に  
 して胡麻鹽又は漬物を副食に晝は同割合の飯に一  
 汁、夕食は飯に養々又は肉入の野菜と云ふ實に憐  
 れな者であるが是で經費は一ヶ月九千圓から一萬  
 圓も費ると云ふことである

▲零落の原因 彼等が此院に收容さるゝに至つた  
 徑路を調べると孰れは病氣の爲め老衰の爲め幼弱  
 な爲め自から活きて行く事が出来ないので前陳の  
 如く六種の中の一つとして收容さるゝのであるが

其直接の原因は姑く措き零落の其遠因に就て調べると自から招いたものとしては左の如く(計千二百の中)

飲酒の爲め	男	四〇	女	一	
色情の結果	同	二一	同	不明	
賭博の結果	同	四七	同	一	
怠惰の爲め	同	四五	同	九	
浪費	同	二七	同	九	
意思薄弱	同	二〇	同	九	
職業に倦み易き	同	三一	同	一	
虚榮の爲め	同	一一	同	一	
浮浪の生活を好む	同	六四	同	三三	
又收容當時に診断した病氣の種類は					
肺結核	男一七六	女三三	脚氣	男八四	女三〇
臍病	同四〇	同八	神經系	同二〇	同三七
胃疾	同四七	同二〇	傳染性	同二一	同二七

▲都會は極樂に非ず 又行路病者が最初出京の目的又は理由としては

糊口の途を求めて	男	二五七	女	一五七
奉公するとして	同	八一	同	二〇
學事又は職業研究に	同	四二	同	四

等が重なるもので一千六百人の中東京在住者は四百五十名計り其他は皆地方からのものである是等は近年農村の疲弊も其原因であるが例の都會を極樂淨土と思惟させる諸種の出版物や成功熱に罹らせる煽動的雜誌と自己の虚榮心の爲めなどが大部分を占めて居るのは注意すべき問題で其證據には出京して此院の厄介になるものは老者に尠くて血氣盛りの廿歳前後から卅四五歳迄が過半数であると云ふに至つては實に案外至極で如何に彼等が都會を買ひ被つて居るか解る殊に妙齡の婦女子が都會に出て奉公しながら一廉の者にならうなどと思つて、漠然出京した後手もなく誘惑の惡魔に地獄へ伴はれて了ふものが非常に多数であるのは新らしくは無いが随分注意すべき問題では無からうか(中央)

●兒童虐待防止事業

神田區元柳原出獄人保護所長原胤昭氏は、昨年七月以來餘力を以て兒童虐待防止事業に従事し居りしが今親しく氏に面會して該事業の由來と約一年間の成績とを語るを聞くに

▲該事業の起原 今や兒童虐待防止事業は犯罪防遏の一段として歐米諸國の著しく留意する處なり我國にても先年動物虐待防止會設置せられ此方面に於ては着々歩武を進めて成績佳良なるものあるも兒童に對する虐待防止事業に至つては或は未だ甚だしく其必要を感ぜざりしか從來何等の施設もなかりき

▲原氏の動機 然るに近年に至り文明の進歩と共に我國に於ても間々兒童虐待の事實を見聞するに至り新聞紙上に於ても比々として此種の報道を見るに及びては最早捨て置くべきに非ずと思ひ居る中昨年六月横濱に於て某興行師の使用少年が虎に噛まれて大怪我を爲したる由を聞き探究の結果全く該興行師の虐待に起因することを確むると共に繼子或は貰ひ子にて虐待さるゝもの、白痴の兒童

を人並の者と誤解し世間並にコキ使ひつゝあるもの又は折檻の結果不具癡疾に垂んとしつゝあるもの等却々に尠少なからざるを採知し最早一刻も猶豫ならずと偕は早速その救済に着手したる次第なり

▲原氏の方法及成績 其方法としては先づ近隣に虐待されつゝある兒童の在るを知る人は郵便にてなり口頭になり匿名にても又郵税先拂にても宜しければ其旨小生迄通知し呉れべき由を印刷したる紙片を配附したるに其後續々として申越しあり十中八九は金を附けて私生兒を貰ひ受けたるを虐待するものにて其都度當方より人を派して其實狀を取調べ愈確實なる時は予自身出張して其不心得を諭し將來甚だ恐るべき結果を來すべき由を説けば多は納得して其虐待を止むるを例とすれど到底改悛の見込なき者は警察の手に依頼して親元に返さしめ居れり、昨年着手以來約一年間の成績は總數三十二人(男兒十四人、女兒十八人)にて中岡山孤兒院、安房養育院分院等完全なる孤兒院に依托したる者四名、安全に加害者の手より離れたるもの三名、歸國せしめたる者三名、監視中加害者の所

在不明となりしもの二名、説諭後現に警戒しつゝ、  
ある者十九名、死亡一名なり(朝日)

### ● 阪本龍馬の姉

目下高知青兎會に保母を勤むる岡上菊惠子(四十四)といふあり是れぞ海南の偉人阪本龍馬の姉乙女史の長女にして父を壽庵(後新助と改む)と呼び高知市本町(今の本町筋)に住し醫を業とせしなり菊惠子には兄社太郎氏ありしも夭折して今亡し而して乙女女史は天資頗る豪放にして乘馬、擊劍、柔術、長刀等の武術に長じたる點に於て殆ど男性的資質の有し常に龍馬を指導して後年の名を成さしめたるは夙に人の知る處なるが今菊惠子の物語る所を聞くに

▲惡漢を縛り上げる 女史は平生女々敷き事を嫌ひ専ら精神修養を第一と爲し居たるが年若き頃或夜獨り築屋敷を通りしに何者とも知れず暗に乗じて茶畑の木蔭より顯はれ出で矢庭に女史を捕へて怪しかる舉動に及ばんとせしを女ながらも日頃武術に鍛へたる腕前何條是敷の事に驚くべき大喝一聲曲者の利腕捕へて其場に捻ち伏せ腰なる細紐解くより早く有無を云はせず男を縛り自分の脊に括つけて連れ歸り『母様こんなもの捕つて來ました

から卸して下さい』と云ひつゝ自ら其繩を解きて其座に据ゑつけたれば流石の曲者も仰天して平謝りに謝りたりといふ

▲天狗の鼻を挫く 龍馬が潮江天満宮にて天狗の鼻を捻上げたる逸話は有名なる話なるがこは女史の逸話を誤り傳へたるのなり其頃天満宮へ毎夜天狗現はれ出づるとの風説頗る高く之に鏗節を供へて立願すれば何事も叶ふべしとの事に女史深く之を怪しみ一夜社内にて潜伏して待つとも知らず例の天狗のノコノコと顯はれ來りしかば己れ曲物正體を發き呉れんと力任せに取つて投げ付けたれば流石の天狗も高き鼻も忽ち挫かれ假面を脱きて正體を現はしソコソコ逃げ去れりといふ

▲其子の教育 又女史は平生女にも膽力の必要なことを持論と爲し居りしが少女菊惠子が恰もスヤ／＼と眠り居る寢所へ忍び入りて鬼の面を被り或は顔に墨や朱を塗りて突然菊惠子を搖起し若し目を覺して驚きの餘り泣き出すやうの事あれば忽ち叱り飛ばし之に反して平氣なれば非常に賞めそやすを常とせし程にて苟且の遊戯にも女らしき遊

びは大の禁物と爲し居たりと斯かる教育の下に成長したる社太郎氏の如き幼より膽力人に勝れ嘗つて十一歳の頃叔父龍馬が社太郎の佩ける刀を見て『そんな刀は役に立たぬ』と云ふや否や其刀を取つて忽ち庭前の石に打ちつけたりしかば龍馬も感心して自分の帯べる脇差を社太郎に與へたりと此兩刀今も猶菊惠子の家に秘藏し居るが鞘は梨地に雲龍を畫ける二尺計りの立派なものなりと

▲繪畫にも堪能 女史又繪畫の嗜み深く社太郎の歿後菊惠子が非常に其死を傷みて『私はいつ兄さんの所へ行けるのです』など、社太郎を慕ふ情切なるより女史は直に筆を採り社太郎に酷似せる肖像を畫きて與へしかば菊惠子は悦んで其畫を佛壇に貼りさア飯をお上り何をお上りと無心に突衝付けしかば紙破れて肖像は迷茶苦茶となる毎に女史は其都度々々書き改め遣り尙家庭の有様など描き與へて慰めしかば菊惠子は知らず識らずの間に大に家庭の趣味を會得されたりと云ふ(日々)

## ●胎内教育

數多の動物中 恐らく人間程幼年期の長いものはありますまい、鳥類は卵から孵化すると、直に分で餌を索める、哺乳類でも生後一二ヶ月か、それとも五六月位を経過しますと、親に離れ、自分で生活を營みますが、人間は中々さうは参りません、何うしても生れて一年位は歩行すら出来無い許りか十二歳になる迄は國民教育を受く可き時期でありますから何の仕事も出来ません、而もそれから進んで高等教育を受けやうとする者になると二十四五歳迄は親の保護を受けなければなりません、斯様に人間に限つて、幼年期の長いのは、人間に必要缺く可からざる教育を享けねばならぬ必要からで、即ち他の動物に卓越して大に發達する所以であります、斯の期間は人間の一生涯中、最も樞要な時代に相違なく、物に譬へて申すと草木の發芽時代とでも稱す可く、決して等閑視してはならぬ時代と思ひます、ですから子を持つ親達は、深き注意を要するは勿論の事です

▲胎内教育 子女の教育は何時頃から始まるかと申しますと、勿論母胎に宿つた時からだと思ひま



す、それ故に人の母たるものは、此時から充分の注意を拂ふは元より、努めて心に邪念を懐かず、能く氣を養ひ食物にも留意し、運動も適度にして、何處までも身體の攝生を怠らず、専ら胎兒の教育を計る可きであります

▲西南の役と徴兵 胎教の必要な事は、今更ら云ふ迄ありませんが、之に付いて恰好の實例があります、それは去る明治三十年度の徴兵検査に出た壯丁は、西南戦争の頃、母胎に宿つた者計りで、實際戦地であつた肥筑の山野に棲まつたものは少くとも耳を劈く大砲小砲の響や渦巻きかへる硝煙彈雨に、一日も安き日としては無かつたので三十年に限り、九州地方では、著るしく徴兵検査の成績が劣等であつたと云ふことです此一事を以ても、胎内教育が如何に産兒に及ぼすかは、實に尠少ないことが判るのです(時事)

### ●米國式珍談

▲數年前南亞米利加から北米の紐育に來た一人の男子がある其頃は未だ廿四五歳の男盛り鼻の下に

も頤にも少しの髯さへなく女にしたらと言はるゝ程の美男子であつた名はマルチネと云つてトある商會の書記に住込み其れから種々の都合で會社や商店などの書記に屢々住換え三十歳になつた今年の先月まで勤めて來た而して其間には同じ商會に勤めて居る女書記から深く深く愛され度々結婚の何のと申込まれたがマルチネは逃げ廻つて相手にせぬ去ればと云つて微塵も其女を嫌ふ様子は無く左も親しげに語り與じて居るので女の戀は益々募る思ひ餘つて再び切なる思ひを語ればマルチネは首を掉つて其事ばかりはと笑ひに紛らして仕舞ふ其内にマルチネは一人の女中を雇ふて自家に置いたので世間では結婚したのだと信する女書記は扱こそ自分に無情かつたのかと憤恚の燄を燃やすなどの話も少く無かつた斯くて先月の或日の事マルチネは出勤しなかつたが其商會を訪ふた一婦人がある先づ其女書記に對して何某さん今日は……と名を呼んだが女書記は遂ぞ知らぬ婦人なので怪訝な顔をして居ると「私はレナ・スミス夫人です私を知りませんか」と云ふドウも失念しましたがと云

ふと夫人は噴飯して『昨日迄のマルチネです』女書記は愈々呆れてオヤ／＼の百萬遍も唱へ段々仔細を聞けば夫人の話は斯うである『自分は南米に居る時何でも一つ奇抜な方法で金を儲けたいと思ひ立ち男の姿をしてポストンに行き舊知の醫者を訪うて話したら自分が婦人の身で男装を爲し立派に男で通せたら一年で五千圓遣らうと其醫者が賭を勧めるから早速承諾して最早滿五年に達し二萬五千圓を取れる筈だから最う澤山だと愈々マルチネの服を脱棄て元のスミス夫人に復つたのですデスから貴嬢の結婚のお話を承諾しなかつたのも已むを得ないでせう』と打笑ふ右の女書記は勿論許多の男女は皆アツと驚きの目を見張つてゐた而して夫人が五年間男装し親しく男子の中に立交つて男子と云ふ者を研究した結果は『男子は女に比して筋骨の逞しいと云ふ一事の外少しも女に優る點は無い』と云ふ結論であるとは一層振つてる

(日本)



● 兒童博覽會及貿易品博覽會に於ても銅牌を受領す

新案の特許を多くらべ折紙人形は此繪  
 の通り形が皆さんが御存じのお舟  
 や鶴を折ると同じ位の手で矢張一  
 枚の紙で折るので  
 ききれいな箱に折上た見本が一通と、  
 折目のすぢの附たる石版四色刷練  
 習用紙二通と折形の順序の書てある  
 や書物とく入れてあります故皆さんに  
 折方を一度おぼへますと白紙で折れ  
 る様になります故それを書をかき彩  
 色をなさいますと書かくおけい



こになります誠に面白折紙です、  
 御婦人とお子供衆には有益な趣味あ  
 る折紙ですから皆さん早く買御覽  
 なさい、送定価格は一箱の中にある通  
 次第、送料は一箱一錢です、代金を着  
 買ふには振替貯金に限ります、郵便局で  
 用紙をもらい其紙の裏に御注文の事  
 をくわしく書て代金を添て頼みます  
 と、代金の外に何れも入りませぬ然し  
 てまがいかなく着きます、本社の番  
 號は東京市九六二九番です

本紙讀者に限り三箱同時に御購求の分に限り送  
 料及代金五十錢に割引致します

内山模型製圖社

（振替東京口座東京壹九六貳九番）  
 東京市本郷區元町二丁目四十一番地

寫真攝影

コロタイプ製版

及印刷引伸

寫真繪葉書

中村寫真館

東京市本郷區

湯島五丁目壹番地

● 特許玩具發賣廣告 ●

新案特許

教育玩具

繪姿十種及び臺座四枚函入

學稽古

◎美麗なる十種の繪姿を洋語の綴方に準じ接合して直立すべく製作したるものにて遊戯上に自然と英語の大意を會得する趣味多き品なり

新案特許

教育玩具

ゴム活字及印刷用インキ附函入

印刷器

◎假名文字のゴム活字を用ひて輕便に印刷し得る玩具なれば小學生徒の家庭教育品として娛樂と學育とを兼備せる最良好適の品なるべし

新案特許

教育玩具

衣裳五組外に地紙二枚抱入

縫稽古

◎實物の衣類通りに美しく染色を施し寸方正しく裁切りし納紙にて其縫代を替め合はすれば立派な衣裳と成る眞に少女唯一の手遊品なり

東京市小石川區諏訪町三一

教育玩具

具製作發行所



順成社

振替口座東京三二四七番

本院今般業務改良の爲め左記の處へ移轉仕候間不相變御引立被下度候

移轉祝の爲め當分の内藥價金六錢均一のこと

下谷區竹町六番地(こんびら通)

鈴木小兒科醫院

皮膚病 一般  
淋病 梅毒 痔疾  
男 泌尿生殖器科  
女

下谷區竹町十二番地七號

(舊佐竹原橋電車通西町小學校向横丁)

永田醫院

院長 永田良英

陰萎、夢精、包莖、夜尿、治療入院隨時

診察 午前八時ヨリ正午十二時迄  
午後六時ヨリ同九時迄

日英博覽會ニ於テ

# 名譽賞牌受領

倉持長吉商店

## 最新近發賣流行玩具具

新 特 許 案	新 特 許 案	新 特 許 案	組 合 賣	專 賣	新 案	印 刷	直 輸	新 着	清 笛 ハ 金 屬 人 形 ニ カ ス	ゴ ム 風 船 ゴ ム 打 球 類	金 輪 獨 樂 丸 面 打	い ろ は か る た 各 百 人 種	流 行 歌 本 繪 本 類	新 案
蝶 蟬 蜻 蛉 玉 蟲	小 鳥 の 啼 聲	ウ ア イ ホ リ ン	グ ア イ ホ リ ン	金 屬 人 形 ニ カ ス	ハ 金 屬 人 形 ニ カ ス	清 笛 ハ 金 屬 人 形 ニ カ ス	清 笛 ハ 金 屬 人 形 ニ カ ス	清 笛 ハ 金 屬 人 形 ニ カ ス	ゴ ム 風 船 ゴ ム 打 球 類	金 輪 獨 樂 丸 面 打	い ろ は か る た 各 百 人 種	流 行 歌 本 繪 本 類	蝶 蟬 蜻 蛉 玉 蟲	新 案

内 外 教 育 玩 具 問 屋

## 倉持長吉商店

東京市日本橋區馬喰町壹丁目

振替東京四四番

電話花五二二番

○弊店販賣品の玩具は全國及び滿洲臺灣朝鮮の到る所の玩具商店にて販賣有之候間御求の時は特に東京豊田屋製と御指命の上御用命之程奉願上候

# フレイベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレイベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ釀出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
  - 一 總會 毎年四月廿一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品幼兒成績物展覽 會務ノ報告 幹事ノ選舉等ヲナス
  - 但シ會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
  - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
  - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス
  - 但シ別ニ組合會規約ヲメテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
  - 一 雜誌發行 毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス
  - 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 會長 一人 會務ヲ總理ス
  - 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
  - 幹事 若干人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
  - 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ズ
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹、幹事、評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルルコトアルベシ
- 第十一條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコトヲ得ス

## 幼兒談話材料

坊間のお伽話は多くは小學校時代の子供には適しても幼兒には適さぬものです。是は本會に於て特に幼兒の爲めに編纂しましたのでおばさんやお母さんが幼兒のお伽には必要のものです。本書にない話本書を標準として作話なさるとが出来ませう。

定價 金四拾錢

郵税 金四錢

## 幼稚園手工圖形

幼稚園恩物の使用法を圖示したもので幼兒をして造らしむ可きものと保姆の造りて與ふ可きものとを併せて載せてあります。

定價 金五拾錢

郵税 金四錢

## 幼稚園遊戯

幼稚園に於ける共同遊戯を説明したものです。小學校の初年級や家庭に於ても頗る有用だらうと存じます。

定價 金四拾錢

郵税 金四錢

本會員の方にて右三書同時に御注文の力には合計代金郵税共金壹圓に割引可致候

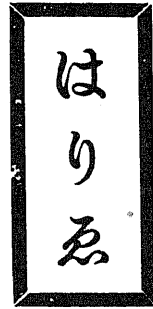
上 坂 中 段 九 京 東  
館 ル ベ 一 レ フ

目 課 業 營

學 校 用 品 類	家 庭 教 育 資 料	幼 稚 園 用 諸 表 簿 類	幼 稚 園 用 書 籍 類	幼 稚 園 用 玩 具 類	幼 稚 園 用 繪 畫 類	幼 稚 園 用 遊 戲 具	幼 稚 園 用 運 動 具	幼 稚 園 用 机 腰 掛	幼 稚 園 用 材 料	幼 稚 園 用 恩 物
-----------	-------------	-----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	-------------	-------------

呈 進 表 價 定 第 次 報 一 御

電 話 番 町 二 七 一  
振 替 口 座 東 京 一 九 六 四 〇



定 價 三 十 錢  
送 料 三 個 迄 八 錢

之には左の色々のものが入つておつて初めは圖形ある臺紙に其の圖の通り打ち抜きたる紙を貼り水や木などを色筆でぬればきれいな繪が出来ます又少し上手になれば白臺紙に自ら圖形を工夫して貼るのです各の玩具には極上等でせう

- 一、打抜二十七種
- 一、十二色のローヒツ
- 一、ピンセツト
- 一、打抜を濕なす水皿  
内に布が入れてある
- 一、印紙臺紙（種々考案した圖形を印刷しある臺紙）

明治四十三年十一月五日發行  
編輯兼 發行所 東京市小石川區竹早町七二  
和田直持 印刷者 東京市本所區番場町四番地  
岡功 發行所 フレール會